

(8)①「チーム学校」による組織的な対応

不登校の要因・背景は複雑化・多様化しており、また一人一人で異なります。
担任一人ではできないことも、他の教職員等とチームを組み役割分担することで、指導・援助の幅や可能性が広がります。

「チーム学校」による支援体制

学校内には、学級担任だけではなく、様々な専門性や職務を担う教職員等がいます。それぞれが自身の役割を理解した上で、チームとして不登校児童生徒を支援していきます。



不登校児童生徒への関わりを専門家等に任せっきりにするのではなく、相互の情報共有を密接にし、一緒に取り組むことが重要です。

そのためにも、上記の会議等にて、アセスメント(情報収集・分析)結果等を議論した上で、プランニングをする。その結果を整理して、「支援計画(児童生徒理解・支援シート)」を作成し、それぞれの分担に基づき、実行する。

実行した上で、必要に応じて、再アセスメントをし、支援の方向性を見つめ直すこととなります。